

## グリベック服薬患者の QOL 実態調査と服薬指導による QOL 改善へ向けた試み

[目的] 慢性骨髄性白血病 (CML)、フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病 (p h+ALL)、KIT 陽性消化管間質腫瘍 (GIST) に対しグリベックは高い有効性を示す一方、高確率で発現する副作用により服薬中の QOL 低下が問題となっている。局内データより、グリベック処方患者 24 名に対し副作用の訴えと併用薬を調査したところ 75% の患者がグリベックによる副作用を訴えている事実を確認した。そこで我々はアンケートを用いてその実態を解明し、患者のグリベックによる副作用認識を高める事によって対処療法実施等による QOL 改善を目指した。

[方法] グリベックを処方されている患者 23 名を対象にアンケートを実施。内容はいずれの会 (CML 患者・家族の会) で実施された「慢性骨髄性白血病の意識生活に関する調査報告書」や MDASI-JPN を参考に、グリベックの副作用と疑われる項目を中心に実施した。そして副作用のある患者に対しては主治医への相談を行うよう指導した。

[結果] 実施前から訴えていた副作用とは別に、新たな副作用を多数確認することができた。中でも筋肉のつり・浮腫においては、16 名の患者に高いレベルで苦痛となっている事が確認された。また、主治医への相談を促すことで対処療法が実施され症状が改善された。

[考察] これらの原因は、患者自身が出ている症状をグリベックによるものと認識していないため副作用が潜在化していることであり、副作用確認方法として項目を具体的に提示することは有用であると考えられる。また、保険薬局が積極的に患者の副作用認識を高める事は QOL 向上に有用である。

発表者： 笹本 千香子

共同研究者：江黒 ひろ美

北岡 与英

長久保 久仁子

七海 亜貴子

林 裕子

星 智子

村岡 周一